

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は正味財産増減額として処理）を採用している。

また会計処理は洗替処理でなく切放処理としている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	43,874,550	0	0	43,874,550
投資有価証券	904,742,000	11,046,000	0	915,788,000
小 計	948,616,550	11,046,000	0	959,662,550
特定資産				
貸与貸付金	27,001,180		4,231,852	22,769,328
奨学事業積立資金	123,549,070	1,536,834	-	125,085,904
小 計	150,550,250	1,536,834	4,231,852	147,855,232
合 計	1,099,166,800	12,582,834	4,231,852	1,107,517,782

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	43,874,550	(43,874,550)		
投資有価証券	915,788,000	(915,788,000)		
小 計	959,662,550	(959,662,550)		
特定資産				
貸与貸付金	22,769,328	(22,769,328)		
奨学事業積立資金	125,085,904	(125,085,904)		
小 計	147,855,232	(147,855,232)		
合 計	1,107,517,782	(1,107,517,782)		

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
用途の制約の解除による振替額	20,615,381
合 計	20,615,381

5. 正味財産増減計算書に計上されている受取寄付金振替額の内訳

(単位：円)

区 分	当年度	前年度
当年度受取寄付金額振替額	4,780,000	5,003,500
過年度受取寄付金額振替額(特定資産取崩額)	3,249,018	3,213,289
合 計	8,029,018	8,216,789

当年度の受取寄付金を振り替えて不足する分は、過年度に寄付金として受け取り、特定資産として運用していた一部を取崩し、財源としている。